



THE IDOLM@STER FAN BOOK
2006 NAITOUI KAIPAN ASSAULT TROOPS

ANGEL INTERCEPTOR

CAUTION: FOR ADULT

ゆきぽっぽ★パニック

描いた大:まきた



あんなとこで
真のやつコンコンと
何やってんだ?

?

.....

おい、まことっ
今日は休みだって
いっただ...

くい、

雪歩がこの中で
なんだかラブモードにっ
休日の事務所で
待ち合わせなんてっ

しーっ
プロデューサー
声が大きいですっ

お、ま

それで好奇心満々で
覗きに来た、と.....

P

ち、ちがいますよっ
ボクはただ雪歩の事が
心配だから.....っ

ま

でも覗くんだろ？

覗きまわす

……まあ。

ほしほし……

なんだか楽しそうに話してますね

てっきりデートにでも行くのかと思ったのに、ただの打ち合わせ……？

まじで、全然さ、ホウモヤン、ホウモヤン……

はあー？
まこちゃんは何
おこちやまな事を
言ってるの？

なんでですか？

休日の事務所に
呼び出して、おいて
何もしないわけが
ないだろうか？

だから打ち合……

ノー……人気のない事務所で
えっちなレッスンに
決まってるでしょ！

えええええつ？



でもっ
雪歩は男の人が苦手だし
そんなエッチなことを
するような子じゃ…っ

オウツホントに
ベイビーちゃんネ!

ああいう大人しい子程
四六時中一緒にいる
Pに対しては
もう心も身体も
開ききっちゃってますよ?

以下、妄想開始。



さあ、雪歩
どうして欲しいの？

言って御覧？

と、特別レックスン
よろしくおねがい…
…しますッ

あ、あの恥ずかしがり屋の
雪歩がそんな格好
するわけが無いじゃ
ないですかッ

まあ俺の予想だが
もう下着はつけてないね
っというか
つけないように
命令されてる

は、はいっ

プロデューサーに
逆らえないんだよ
雪歩みたいな子はッ

まじはいつも通り
お口で……なり

あ……

失礼しまふっ

雪歩がっ
そそんな男の人の
おちんちんを……
するはずがないですッ

初めてした時に
比べて随分上達
したね

最初は嫌だったけど
今はもう大好きに
なってるの！

いちいち真は反論するが
好きあつてる者同士
なんだから
セックスしてても
おかしくないだろっ

腰がっ

うっうっさや...あッ

雪歩みたいな子は
かえって相手に身体を
捧げちゃうもんだよ

た、確かに雪歩は
一途な所があるし.....
プロデューサーの
言う通りかも.....





以上、妄想終了





なんとなく
ホーナスレッスン
一回ゲット。

End

雪歩まんが：暫定版

かいたひと：まきた

三ツマイマニで出したコトロー誌より

はうはうは
こんなの嫌です
やめてください

びん

へえ……
その割には
乳首が……ほおろく

はうはう

びん

これも男が苦手な
雪歩のために
やってることなんだからな

びん

今日もたっぷり
味わってもうござい

プロデューサー
だめです

もーや

もーや

じゃあしつかり
おまんこで味わって
貰いませうかね

だめえっ

中に入れちゃっ
だめですううッ

はははっ
おちんちん大好きな
雪歩らしくないぞ♡

雪歩のお○んこ
ほんとに美味しそうに
くわえてるよ
いいおま○こだなあ

じゃあそろそろ
お腹の中に
こゆいミルクを
たくさん
出すからね♡

やだ……っ

中に出しちゃ
だめですっ
精子やだあッ

アハハハハ

アハハハハ

アハハハハ
アハハハハ
アハハハハ

アハハハハ

アハハハハ

アハハハハ

アハハハハ

アハハハハ

アハハハハ

アハハハハ

アハハハハ

はじょうじ
そんなあ……

いいかい 雪歩の
男嫌いが治るまでは
これからレツスンの度
におま○こで精子を
飲んでもらうからね♥



……とまあこんな感じで
一発かましてやれば
更に信頼度アップ!
お前だけのアイドルに♡

僕だって興味が
無い訳じゃ無いけど
そんなこと雪歩に
できませんよっ

大体無理無理してんのに
信頼度も高くないですよっ

……あのっ
私がどうかしましたか?



ゆきほっ

あ、挨拶わすれてましたっ
おはようございますっ

あははは

おはっ
おはようっ



最近お仕事が楽しいのも
あるんですけど
プロデューサーと一緒に
いるだけでも嬉しくて……

邪悪な先輩の妄言に
惑った自分が恥ずかしい!
そんなことしなくたって
僕と雪歩は一心同体!
少女隊!



「おはよう」
「おはっ」

「おはよう」
「おはっ」

おはっ

おはっ

THE IDOLM@STER FAN BOOK 2006 HAYASHI KAZUHI KANEKUN ASSAULT TROOPS / YOSHIMARU MARUYA

